

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和7年度 第1回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和7年6月2日（月） 午前9時30分～10時30分

III. 開催場所

松川町役場 大会議室

IV. 出席者氏名

《委員》

北沢秀公会長 水野一昭副会長 藤澤洋二委員（代理/堀内郁勇） 片桐実委員（代理/片桐博）

菅沼文弘委員 清水祐一委員 井澤弘幸委員 細田勉委員 原節子委員

岩下秀樹委員（代理/高橋正俊） 折井克壽委員（代理/塚田博） 有吉拓人委員

依田俊彦委員（代理/丸山隆裕） 中村昌彦委員 塩倉智文委員 鈴木正満委員

西浦素之委員

[欠席：山岸康範委員]

《事務局》

黒澤哲郎幹事長 松尾天事務局長 大橋良平事務局員 元木ともみ事務局員

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

VI. 傍聴人の数

5人

VII. 協議事項（公開）

- (1) 令和6年度事業及び決算報告について
- (2) 令和7年度事業計画及び予算（案）について
- (3) 生活交通確保維持改善計画（案）について
- (4) 監査委員の選出について

VIII. その他

IX. 会議資料の名称

次第及びVIIに係る資料

X. 審議の概要

1. 開会（松尾事務局長）

2. 会長挨拶（北沢町長）

〈事務局より説明〉

協議会規約第7条により会長が議長となる。

また、委員18名中12名の出席、代理出席による委任状5名提出により本会議は成立する。

3. 協議事項

(1) 令和6年度事業及び決算報告について

〈事務局より説明〉

委員：チョイソコの取り組み非常に参考になった。南信州圏域内でデマンドをしてみたいという市町村があるので、また参考にさせていただきたい。

資料でいうと3ページ目、1日大体20から30人ぐらいが乗車しているということだが、まず、全体で何台運行しているのか。

また、1日30件ほどの予約があるということで、受付をするシステムは全体的にAIでやられてるのか。どのように運用されてるか少し説明願いたい。

事務局：資料の3ページでチョイソコの推移ということで、1日利用実績が30から40ぐらいあるというところでお示しさせていただいている。松川町では4台の車両を使って4台のドライバーを毎日確保して運行してるという状況。内訳としては、丸茂自動車さん2台、伊那バスさん2台。伊那バスさんについては、朝と夕方のバスの運行もお願いしているため、朝遅めに入って夕方早めに抜けていくことになる。実際に4台がフル稼働してる時間は朝9時から夕方3時前くらい。また、休憩も取らないといけなくて、そういったことも加味すると常に3台ぐらいが運行できる状態になっている。

予約システムの関係は長野トヨタさん経由でアイシンが提供しているチョイソコというシステムを活用している。現状では、このシステムが判断した経路で運行していて特に問題はないかなというところ。まだ余裕はあるのかなと感じている。予約が対応できないとかそういったようなことは今のところないかなと思う。その辺りコールセンターの事業者である丸茂さんからも補足願いたい。

委員：チョイソコのコールセンターを運行開始当時から弊社の方で運営させていただいている。通常時は朝8時30分から夕方5時までの受付の時間で1時間前までの予約ということで、2名のコールセンターのスタッフを採用して運営している。チョイソコの回線は2回線あるが、朝はほぼ埋まってなかなか電話が取れないときもある。引き続きかけてくださるお客様とそうじゃないとれなかったお客様はこちらからかけ直しをして対応している。

状況としては当然タクシーの方は減っているので対策していかなければならないというのが現状。

委員：小さいことだが、月次の取り組みのうち、2月から3月のところに「チョイ CHOCO」という取り組みがあるが、これは先ほどの説明でいくと何に該当するか。

事務局：この「チョイ CHOCO」というのは駅でチョコレートを配ったPR活動になる。可愛い企画も実施して、若者の心をつかむという目的で実施した。こちらは令和5年度にも実施し、2回目ということになる。チョコレートを配って、そこから1名～2名は実際に利用につながっている。具体的には下校の早い日や保護者が迎えに来られない日に利用してくれる人もいる。一定の効果があつたと考えている。

委員：承知した。もう1点、これはもしあればということで何うが、先ほど年齢別のパワ

ポのそのスライドでも出ており、50 歳以上が多く利用されているという集計は取られてると思うが、ほかに乗降場所の集計は取られているか。

事務局：乗降場所の集計というところも定例的にはないが取ったりはしている。人口比で見た場合においては生田方面の利用が多い。その次に上片桐になる。やはりこの運賃がどこまでいっても一律という性質上、遠ければ遠いほどメリットがあるため生田と上片桐の利用が多いと分析をしているところ。上片桐の次は名子の利用が多い。上大島方面からの利用があまり伸びていない印象。細かい数字は示すことはできないが、このような現状であるということでご理解いただきたい。

委員：チョイソコ事業の決算額はいくらになるか。

事務局：細かい数字は手元にはないが、チョイソコの費用感として、委託料のところをご覧いただきたい。今回の決算額のうち、委託料合計が 6950 万円程度ということになっているが、このうちの 4000 万円程度がチョイソコの委託料というイメージ。残りの金額は定時路線への委託料である。その 4000 万円程度の内訳は、運行委託等で丸茂さんと伊那バスさんに払ってるのが 3000 万円、あと 500 万円ほどがチョイソコの予約システムにかかる費用と車両のリース料になる。残りの部分がコールセンターの委託料ということで、合計 4000 万円ほどになる。

少しざっくりとした説明にはなるが、こちらがチョイソコに係る費用となる。

【令和 6 年度事業及び決算報告について承認】

(2) 令和 7 年度事業計画（案）及び予算（案）について

＜事務局より説明＞

※質疑・意見なし

【令和 7 年度事業計画（案）及び予算（案）について承認】

(3) 生活交通確保維持改善計画（案）について

＜事務局より説明＞

会長：この会議に出ていただいている皆さんは承知のことかと思うが、この予算の中の補助金の関係について、予算書を見ると公共交通全体で町から 7000 万ほど出ているというような数字の見方ができるが、実際にはこのうちの半分が国の交付税で措置をされている。そして先ほどの計画を国へ出して補助をとることによって 400 万ほどの補助が出ている。町の単独の財源だけではなく、国事業を使いながらやってるということでご理解いただきたい。

※質疑・意見なし

【生活交通確保維持改善計画（案）について承認】

(4) 監査委員の選出について

＜事務局より説明＞

※質疑・意見なし

【監査委員の選出について承認】

4. その他

委員：本日、皆さまのお手元にみすずハイウェイバスのチラシを入れさせていただいた。松川町にもインターに高速バス停がある。みすずハイウェイバスの便数はもともと 8 便のところをコロナの影響で 1 日 4 便になってしまっていたが、この 4 月から 1 日 7 便まで増やし、コロナ前に近づける形で運行している。利用者が、便数が減ったことでだいぶ減ってしまったんですが、やはりこの南信州から長野市を結ぶ圏域を超えた重要な路線なので、南信州としてはこれをどうしても維

持していきたいと考えている。

今回の増便について、これは恒久的なものではなく、実証実験的のような形で今回は増えてるのでこの機会に皆さん使っていただくことで将来的にも維持されていく。

ぜひ皆さんにもご利用いただけたらということで紹介させていただいた。

実際4月から運行を開始しており、とりあえず4月の状況を見ると、この裏面の一番早い時間帯に5時台のバスがあるが、ここの利用がコロナ前に比べると半分以上ぐらいになっている。やはり先ほどチョイソコの話でも出たが「運行している」ということを知ってもらうことが非常に重要で、本日はその観点ですごく参考になった。やはりみすずハイウェイバスも増便になってこの早い時間もあるというところを私どももその周知に力を入れてやっていくので、ぜひ周りの皆さんにもPRしていただけると大変ありがたい。

事務局：地域振興局さんからご説明いただいたみすずハイウェイバスだが、4月に研修があって利用させていただいたときは7時台のバスだが大体半分ぐらいの座席が埋まっている状況ではあった。たまたまだったかもしれないが昨年よりも利用者が増えている印象を受けた。これは県の担当部署の方々のご尽力もあってのことかなと感じているところ。しっかり町の方でもみすずハイウェイバスを含めた公共交通の利用についてPRしたいと思う。また、バスで行くときは駐車場もあるが、チョイソコを使ったり、丸茂自動車さんのタクシーを使ったりと、そういった2次交通も使っていただけたらということで、また周りの方にお話をしてみただけたらありがたいと思う。

委員：南信州地域交通問題協議会から2点お願いしたいことがある。1点目は、実は南信州圏域では、地域交通計画という全体の交通のあり方を示す計画の策定というのを圏域全体でおこなっている。松川町独自のものというのは今のところないが、今年の取り組みとして、各町村の実態をつぶさにお伺いして、今後どうしていきたいかをよくお伺いしながら、計画の素案を作っていきたいと考えている。先ほど松川町さんの総合計画の中でウェルビーイングの話が出ていた。交通分野で先ほどのウェルビーイング指数でいうと、買い物であったりとか通院であったりとか、どのように暮らしていきたいのか、これは松川町の皆さまからいただいた内容をもって計画を策定し、施策を実行してまいりたいと思っている。

ただ、今回計画を策定するにあたってはまた皆さまにお伺いさせていただきたいというのがありますので、この計画についてまたお話をさせていただきたいと思っているので、また今後ともご協力願いたい。

2点目、南信州圏域全体の動きとして国土交通省の方から、今回の交通空白解消プロジェクトの選任を受けた。これは何をやるかという、日本全国で抱えるいろいろな共通の困りごとについて専攻的にやる地域を選定され、国や事業者から支援をしていただき、事業と展開していくものである。私どもが選定された理由とすると、共同運営型の公共交通の効率化をある程度できないかという検討を行うという内容を提示したところ、選定いただいたことということになる。

今回、松川町単独の中で例えばチョイソコまつかわをデマンド交通ということでやってらっしゃるが、実際の暮らしだと例えば町内だと新井商店街とか、いろんなところに施設はあるが、同時に町外にも行きたいという要望はどうしてもあると思う。ただ現行の制度だとまだ手付かずである。例えば圏域の南部であったら、タクシー事業者さんがかなり厳しい状況であるためエリア内の共同運営について検討していくが、北部でもそういったエリア単位での検討というのも並行して、今回計画策定を行っていく予定でいる。その際には私どもでまた皆さまに状況をお伺いしながら、要望を反映できるように努めてまいりたいと思っている。

委員：先ほど上峠の通学便、部奈や馬坂の方面の利用者が増え、ありがたいなと思う一方

で、すごく危険な場所がある。リニアの関係でトラックやダンプが多く通るが、下小松川橋の交差点には横断歩道がない。子どもたちもビクビクしながら渡っていたり、子どもたちが信号で待っているのに、車やダンプ、トラックがスピードを緩めず曲がったりということがある。ちょうど警察や建設関係の方がいるので話すが、あそこに横断歩道をきちんと引いてもらった方が子どもたちの安全を守れるのではないか。

それともう1点、部奈線のバスが本当にもうボロボロで、部奈坂を上ることができなくなるのではないかと思うくらいになっている。もう少しバスに少し予算をつけていただいて、長野松本飯田でもどここのところもそうだが、やはり公共交通バスの中でも町村などのバスについては補助金をもらって何とか運営してるような形になるため、自社でバスを調達することは難しい。部奈線のバスだけは雨漏りもしているし、夏はエアコンかけたら全然坂道を上がっていかないしという現状もあるため、改善をお願いしたいと思い、意見させていただいた。

事務局：車両の件はまた要望ということで今後検討させていただく。下小松川橋の横断歩道の件についても関係の皆さんにも出席いただいているが、ご要望ということで今後検討させていただきたい。

5. 閉会（松尾事務局長）